

3. 調査内容

リング式ガイドブックの活用，複写式健診問診票の活用，自由意見で構成した。

4. 調査期間

平成19年2月26日から平成19年3月2日の間に実施した。

5. 分析方法

回収した調査票（88票）のうち，各項目の有効回答票（有効パーセント）により，集計・分析した。

自由回答の分析は，紙面上に記述された内容を，「肯定的意見」，「否定的意見」，「肯定的意見と否定的意見双方の混同意見」，「その他要望等」の4つに分類して集計した。さらに，類似するものをカテゴリー化して分類し，集計を行った。

分析は，統計ソフトSPSS11.5Jを使用した。

IV. 結果

1. 回収状況

配布数273人，回収数88人，回収率32.2%であった。

2. 対象児の特徴

対象児の月齢は，生後2ヶ月から10ヶ月であり，内訳は表1のとおりであった。平均月齢は，6.4±2.4ヶ月であった。

表1 対象児月齢

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1.1	1.2	1.2
2	5	5.7	6.1	7.3
3	10	11.4	12.2	19.5
4	6	6.8	7.3	26.8
5	7	8.0	8.5	35.4
6	10	11.4	12.2	47.6
7	9	10.2	11.0	58.5
8	16	18.2	19.5	78.0
9	9	10.2	11.0	89.0
10	8	9.1	9.8	98.8
11	1	1.1	1.2	100.0
合計	82	93.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	6.8	
合計		88	100.0	

子どもの数（第何子目か）については，1人（第1子目）が35名（40.2%），2人（第2子目）が37名（42.5%），3人（第3子目）が15人

（17.2%）であった。

3. 「印西市子どもガイドブック」について

（1）使いやすさ

「印西市子どもガイドブックは使いやすいですか」という問いに対し，「はい」が80名（92.0%），「いいえ」が7名（8.0%）であり，使いやすいと感じている保護者が多いことがわかった。

（2）バインダー式について

「バインダー式のガイドブックは，冊子やバラのものと比べて活用しやすいと思いますか」という問いに対し，「はい」が85名（97.5%），「いいえ」が2名（2.3%）であり，冊子やバラのものよりもバインダー式のほうが活用しやすいと感じている保護者が多いことがわかった。

（3）健診票の複写式について

「健診票が複写式で，保護者が記入したものが手元に保管できることのは，そうでないのと比べて良いと思いますか」という問いに対し，「はい」は80名（93.0%），「いいえ」は6名（7.0%）であった。

4. 「印西市子どもガイドブック」についての自由意見

自由意見の記述は60名から得られた。その内訳は，「肯定的意見」が20名（33.3%），「否定的意見」が13名（21.7%），肯定的意見と否定的意見の双方の混同意見」が9名（15.0%），「その他」が18名（30.0%）であった。

自由意見を類似するものをカテゴリー化して分類してみると，24に分類（累積は91）できた。

肯定的意見は5分類（37）であり，「使いやすい」が16，「バインダー式は便利」が8，「わかりやすい・見やすい」が8，「無くさず良い」が4，「丈夫でよい」が1であった。

否定的意見は4分類（26）であり，「大きい」が9，「厚い」が8，「保管に困る」が7，「重い」が2であった。

その他要望等は14分類（28）であり，「予防接種の内容を充実させて欲しい」が5，「地図を入れて欲しい」が3，「バインダーが開けにくいので変えて欲しい」が3，「情報量

が多いので簡単にまとめて欲しい」が 3, 「デザインを可愛くして欲しい」が 2, 「健診票や予診票を郵送して欲しい, はがきで通知して欲しい」が 2, 「ポケットなどを追加して欲しい」が 2, 「1 ページの字数が少なく紙数が多いので, 字数を増やして紙数を減らして欲しい」が 2, 「日程表がわかりづらいので見やすくして欲しい」が 1, 「手形を入れて欲しい」が 1, 「内容の充実を求める」が 1, 「医療機関情報が欲しい」が 1, 「上の子のときもバインダーが良かった」が 1, 「ガイドブックナンバーは受け取るときに一緒に教えて欲しい」が 1 であった (全文は後に掲載)。

5. 健やか親子 21 の周知度

「健やか親子 21 を知っていますか」という問いに対して, 「はい」は 7 名 (8.2%), 「いいえ」は 78 名 (91.8%) であった。

V. 考察

本研究班が開発したバインダー式母子保健ガイドブックには高い評価が得られており, また, 記入した健診票が手元に戻り保管できることは, 多くの保護者にとって良いと感じていることがわかった。

平成 18 年 4 月から配布開始しているガイドブックは, 今後使用期間が長くなるにしたがって, 新たな意見が出てくることが予測される。そのため, 乳幼児健診や予防接種, 子育て支援事業等のあらゆる機会を通して保護者からの率直な意見を聴取し, その意見を参考にしてバージョンアップを図っていくことが必要であると思われた。

0 歳児をもつ保護者には, 21 世紀の母子保健を推進する国民運動計画「健やか親子 21」の周知状況が 8.2% と大変低く, 子育て中の保護者には広く周知されていないことが明らかとなった。

VI. まとめ

本研究班で平成 17 年度に開発した保護者保有型複写式母子保健ガイドブックが, 平成 18 年 4 月以降千葉県印西市で配布され使用している。本研究では, 使用している保護者のガイドブック活用状況について把握し, 本研究班で開発したガイドブックに関する評価を目的とした調査を行った。対象者へ配布 (273

名) し, 88 名 (回収率 32.2%) の回答が得られた。

1. 「印西市子どもガイドブックは使いやすい」は 92.0% であった。
2. 「バインダー式のガイドブックは, 冊子やバラのものと比べて活用しやすい」が 97.5% であった。
3. 「健診票が複写式で, 保護者が記入したものが手元に保管できることのは, そうでないのと比べて良い」は 93.0% であった。
4. 「印西市子どもガイドブック」に関する自由意見の記述は 60 名から得られ, 「肯定的意見」が 20 名 (33.3%), 「否定的意見」が 13 名 (21.7%), 「肯定的意見と否定的意見の混同意見」が 9 名 (15.0%), 「その他」が 18 名 (30.0%) であった。さらに 23 に分類 (累積は 91) され, 肯定的意見は 5 分類 (37), 否定的意見は 4 分類 (26), その他要望等は 14 分類 (28) であった。
5. 「健やか親子 21 を知っている」は 8.2% であった。

今回の調査により, 9 割以上の保護者は母子保健ガイドブックに満足していることが伺えた。今後母子保健情報の利活用をめざしたシステムの構築において重要な一手段になりうるものと確認できた。

VII. 文献

- 1) 鈴木茜, 他: 保護者保有型母子保健ガイドブックの開発に関する研究～印西市におけるリングファイル複写式健診問診票ガイドブック構想の実現～, 厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 山縣班報告書, 2005 年。
- 2) 鈴木孝太, 他: 各都道府県における母子保健統計情報の収集・利活用状況に関する研究, 厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 山縣班報告書, 2005 年。
- 3) 松浦賢長, 他: 周産期から就学期にかけての継続的な健康支援システム構築に求められる情報化と情報連係のあり方に関する研究, 厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 山縣班報告書, 2004 年。

Ⅶ. 自由意見

(肯定的意見)

- ・ 1冊のバインダー式にまとまっているので、とても使いやすいと思います。説明もわかりやすいです。
- ・ バインダー式になり、見やすくなった
- ・ バインダーになっているので、自分で関連書類のファイルができ書類整理しやすく、紛失の心配もなく安心。まだ生後間もないので、これからもっと活用できると思う。
- ・ 使いやすくていいと思う。資料等、好きに増やせるので。
- ・ 6年前と比べると、ずいぶん使いやすくなったと思う。
- ・ 引っ越しをしてきましたが（東京都世田谷区⇒千葉県我孫子市⇒印西市）、「バインダー式」は初めてで、整理しやすく思い出に残せるという点でとてもいいと思いました。
- ・ とても使いやすくて、無くさないのが便利です。
- ・ 初めての子育てなので、分からないことばかりですが、ガイドブックがあって、予防接種など、色々と助かっています！
- ・ バインダー式になったことは、とても良いと思います。しっかりと一つにまとめ、わかりやすく、無くしづらい。
- ・ 子どもの成長経過を見るのにも役立ち、しかも今回のバインダー式のもの整理しやすく、長期保管しても痛まず（シワにもならず色あせも予防できる）、とても良いと思います。
- ・ わかりやすくて使いやすいと思う。
- ・ 性格的にすぐ何処かに無くしてしまうので、ひとつにまとまっているので大変助かっています。ありがとうございます。
- ・ とてもしっかりとまとまったもので使いやすいです。子育てに力を注いでいる市だと思いました（転入したので）。
- ・ 第1子の時は冊子で、必要な書類や情報がバラバラで使いづらかったが、バインダーでしかも項目別にまとまっているので、とても使いやすかった。
- ・ 出生届を提出し、子どもガイドブックを頂いたときに「あ～、本当に親になったんだなあ」と喜びと共にその責任を感じて、キモチが引き締まりました。出産の

大変さ、喜びは想像以上に大きなものでしたが、ガイドブックの厚さや内容を見て、現実とこれから行っていく親としての役目を感じたのだと思います。私はとても使いやすく、管理もしやすく、気に入っております。

- ・ 初めての子なので、大切な情報が一つになっていて、予防接種や健診についてもわかりやすくまとまっていて助かりました。里帰り出産で他の県の病院でこのガイドブックを見ていたら、看護師さんたちが感心して熟読していました。
- ・ 年齢が離れて生んでいるため、今回このバインダー式を初めていただきましたが、とても使いやすいと思いました。
- ・ バインダー式なので、他の子育て関連の資料（小児科でもらったプリント、児童館のスケジュールなど）を、まとめてファイルして利用しています。一つにまとめられて便利です。
- ・ バインダーになっていて、とても良いと思います。すぐにとりやすいし、私は初産だったので何もわからないので、このガイドブックはとても見やすいです。
- ・ 第3子でバインダー式になり、以前より使いやすさを感じています。

(否定的意見)

- ・ 厚いので、しまう場所に困る
- ・ 少しサイズが大きいので、保管をするのに場所をとるので、もう少し小さくして欲しい。日程と健診票、予防接種予診票が離れているので、使いづらい時がある。
- ・ もう少しコンパクトだと使いやすい。
- ・ もう少し、薄くても良いのでは？
- ・ 凄くごついので、もう少しスマートなバインダーがより望ましいです。
- ・ バインダーが少し大き過ぎかなと感じました。
- ・ 第1印象は大きくて厚くて置き場所に困ると思った。1ページにある情報が少なく、ページ数が多いので、もっとページ数は少なく（内容はそのまま）コンパクトにして欲しい。B5サイズでも良いのでは。今のサイズだと、子どもが書いた絵などを挟んでおけるかも。活用すると良いのではないか。
- ・ バインダーが明けにくい。収納する場所をとる。

- ・ もっと簡単にまとめて欲しい。
- ・ 絵がダサく、可愛くない。
- ・ バインダーが厚すぎる。
- ・ バインダーが少し大きく、開きにくい。
- ・ もう少しコンパクトになると嬉しいです。
(肯定的・否定的意見)
- ・ 使いやすいが重い。
- ・ バインダー式になっているのは使いやすいのですが、大きすぎてけっこう場所をとってしまうので、A4サイズくらいで厚みも3cmくらいにしてもらえたらいいと思います。
- ・ バインダー式は便利だが、かさばると重いので、長男の時の冊子でも充分だった。
- ・ バインダー式は、情報がまとまっていて助かりますが、重いため使いづらい。もう少し軽いものが良いのでは。頂いてきた資料などを追加するのに、バインダーにポケットなどを増やしたりするなど、追加しやすい工夫が欲しいです。
- ・ わかりやすく情報別にバインダーされていますが、多すぎて読む気になれません。育児の合間とはいえ、面倒です。
- ・ 長男のものと揃えて保管しようと思っていましたが、昨年長女が生まれ、ガイドブックがとても立派になっているのに驚き、それ自体は使いやすいものの、長男のものと揃えて保管することが出来ないことに不便を感じているのも事実です。
- ・ バインダー式はとてもよいと思うが、大きすぎて使いづらい。中の紙の量が多すぎる。
- ・ 一つになり使いやすいのですが、少々大きすぎるように思います。厚さ、大きさ共に、もう少しスマートになったら良いと思います。母子健康手帳を入れる場所(ポケット)などがついているともっといいです。
- ・ 子ども関係の資料を一冊にまとめてくださるといふ発想は良いと思うのですが、バインダーファイルが大きすぎて使いにくく、保管場所にも困ります。出世維持の申請書類の提出が住んだ後は、予防接種や健診用の書類が要る時しか開くことはありません。それなので以前のような冊子式でも、場所をとらず良いのでは、とも思います。
(その他要望等)
- ・ とても使いやすいと思う。無くすこともないし、よいと思う。予防接種の受け方(期間のあけ方)など、もう少しわかりやすく記入してあると、なおよいと思う。
- ・ 第1子の時はバインダー式ではなかったので、今回は使いやすいです。残しておけるというのを考えてみて、手形とかも残せたらさらに楽しさも加わるのかなと思いました。
- ・ 子どもが生まれてから引越してきたので地理がわかりませんでした。もう少し詳しく地図を載せてもらえると良かったです。
- ・ 保育園や支援センターの紹介のページに地図があると便利(実際に行こうと思うと、まずは場所探しになるので)。書式が揃っていないので、必要なものを探しにくいし読みにくい(色も、カレンダーだけつけるとか、インデックスのみにするとか)。
- ・ 市の施設(子ども関係)の地図をすべて載せて欲しい。
- ・ 1人目は東京に住んでいる時に生み、その時は健診票や予診票が必要な時期に郵送されてくるシステムになっていて、うっかりタイミングを逃すことがなくて私は良かったと思いました。こちらに映ってから2人目を生み、冊子タイプのものでしたが、まあ使いにくくは無かったです。しかしやはりうっかり忘れて受けなかった健診が出てきて、後で驚いてしまいました。3人目になって、バインダーになり、大きくて保管が大変に。1人目からこのタイプだったとしたら、多分邪魔だと思う。バインダーだから使いやすいけど、なんだかいいのか悪いのか、わかりませんね。
- ・ 問診票がすべて入っているので、自分で計画を立てて予防接種を進められる利点がある。反面、その都度(適齢月齢)になった時につい忘れてしまうかも(他市では、その都度問診票を送ってくれて、忘れないようにしてくれていた)。
- ・ ワンタッチで開閉できるものだと、もっと良いと思います。
- ・ 一番前のページにある、ちょっとした細かいものを入れるところ(内ポケット)が、後ろにもあればいいと思う。
- ・ 子どもの一時的保育について、記載されているもののほとんどは6ヶ月以上の赤

ちゃんが対象であり、予約が必要でした。6 か月未満児で急なときでも預かっていただけの所も載せて欲しいです。

- 一つひとつよく説明して頂けると、もっとわかりやすいと思います。予定表（健診や予防接種）などは、新しいものが出るとはわかりません。
- 日本脳炎の予防接種が、現在見合わせされているにも関わらず、その旨がどこにも書かれていなかったのは不親切だと思いました。
- 「予防接種と子どもの健康」の冊子に予防接種の効用・副作用の記載がありますが、これを各予防接種の予診票の前につけてくれると、わかりやすいかなと思いました。全体的には、とても使いやすいです。
- バインダーのデザインが、もう少し可愛くなると嬉しいです（色など）。あと、厚みがもう少し薄くなってもいいかもしれません。予防接種のスケジュール例を、カラーなどにしてもう少しわかりやすくして頂けたら嬉しいです。初めてですと、結構スケジュール立てが難しいのです。
- 第1子に対して、予防接種の受け方（順番）の説明を、もっと詳しくしたほうが良いと思います。
- 医療機関の情報がもっと欲しい。
- 上の子はバラバラ冊子だったので、上の子のときもバインダーがよかったです。
- ガイドブックナンバーは、渡す時に、一緒に教えて欲しかったです。

資料1 「印西市子どもガイドブック」(平成18年4月～)の概要

2リングの「バインダー式」ファイルであり、以下の表のとおりの内容で構成している。

一覧・日程表	<ul style="list-style-type: none"> ①出生時の申請手続き窓口チェックリスト ②サービス概要パンフレットと申請用紙 ③母子保健事業年間予定表 ④事業一覧・市の母子保健情報
予防接種関連	<ul style="list-style-type: none"> ①予防接種の受け方 ②各種予防接種情報 ③海外渡航感染症情報・その問い合わせ ④予診票綴り BCG, ポリオ, 3種混合, MR, 日本脳炎
乳幼児健診関連	<ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児健診等の受け方に関する情報と健診票で構成する ②相談票・健診問診票の綴り 4か月児相談票, もぐもぐごっくん教室相談票, かみかみ教室相談票, はいはいよちよち相談票, 1歳6ヶ月児健診票, 2歳児歯科健診票, 3歳児健診票
母子保健情報	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの医療に関する情報 夜間救急について かかりつけ医のすすめ 医療制度について 市内医療機関案内 ②子どもの事故予防啓発 チャイルドシートについて 年代ごとの子どもの事故について ③相談窓口 保健所での母子保健サービスについて 保健センターでの母子保健サービスについて 市の相談できる職種紹介 ④子どもと保護者の健康に関する情報 健康ワンポイントアドバイス情報等
子育て支援情報	<ul style="list-style-type: none"> ①市内施設 児童館, 子育て支援センター, つどいのひろば, 保育園子育て支援事業, 公民館, 図書館, 文化ホール, コミュニティーセンター ②子育て相談窓口(市内市外) ③保育園幼稚園学童保育施設情報 ④公園情報 児童遊園, 講演 ⑤福祉サービス 児童手当, 児童扶養手当, 誕生児支援金
その他	<ul style="list-style-type: none"> ①表紙 表面: 目次 裏面: ガイドブックの概要

「印西市子どもガイドブック」に関するアンケート



平成18年度厚生労働科学研究費補助金子ども総合研究

「健やか親子21の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究」班

主任研究者 山縣然太郎

現在わが国では、21世紀の母子保健を推進する国民運動計画「健やか親子21」が実施されています。本研究班では、印西市との研究協力によって「印西市子どもガイドブック」の開発を行い、印西市では平成18年4月より保護者の皆様へ配布されています。

今回の調査は、「印西市子どもガイドブック」をご活用されております保護者のみなさまのご意見をもとに、今後の支援を検討していくことを目的としています。

調査結果は、「厚生労働省子ども家庭総合研究事業報告書（主任研究者：山縣然太郎山梨大学大学院医学部教授）」などにおいて発表します。無記名にてご回答いただきました内容は統計的に処理し、個人にご迷惑をおかけすることはありません。ご協力のほど、よろしくお願いたします。

なお、このアンケート用紙を3月2日必着で印西市中央保健センターにお送り願います。

- A. お子さまの年齢 第1子（ ）歳（ ）ヶ月 第2子（ ）歳（ ）ヶ月
第3子（ ）歳（ ）ヶ月 第4子（ ）歳（ ）ヶ月
- B. お子さまの人数 （ ）人

* 以後、○の数の指定がない質問は、いずれか1つに○をつけてください。

- 問1. 「印西市子どもガイドブック」は使いやすいですか。 1. はい 2. いいえ
- 問2. 出生に関する申請手続き、子どもの健診、予防接種、健康情報、子育て情報、保健センター地図など、子どもに関する情報が「バインダー式」でまとまっているガイドブックは、「冊子」のものやそれぞれが「バラ」になっているものと比べて、活用しやすいと思いますか。
1. はい 2. いいえ
- 問3. 健診票が複写式になっており、保護者の方々が記入した内容を健診後にバインダーに手元に保管できることについてお聞きします。記入したものが手元に戻るものは、手元に戻らないものと比べて、良いと思いますか。
1. はい 2. いいえ
- 問4. 「印西市子どもガイドブック」についてのご意見等を自由にご記入ください（裏面もお使い下さい）。
- 問5. 「健やか親子21」を知っていますか。 1. はい 2. いいえ
- 問6. 「印西市の母子保健（母親学級・健診・予防接種・訪問など）や子育て支援」についてのご意見等を、自由にご記入ください（裏面もお使い下さい）。

☆本調査に関する問い合わせ先：福岡県立大学看護学部 松浦賢長（分担研究者）0947-42-2118

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました

家族リンク型健康情報データベースの活用と 保健師活動における視点の変化に関する研究

渡辺 多恵子 常総市保健推進課（旧石下町保健課）
杉田 真理子 常総市保健福祉課（旧石下町保健課）
池田 裕子 長岡京市健康推進課
松浦 賢長 福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座
山縣 然太郎 山梨大学大学院医学工学総合研究部

茨城県石下町では、個人の出生から高齢者までの健康情報を一元管理し、その家族の健康情報とリンクさせるという特徴を持つ家族リンク型健康情報データベース（以下、本データベース）を稼動し、保健活動に活用している。

本データベースを活用することにより、保健師活動においてどのような視点の変化が生じたのかを抽出するために、3つの母子保健事業（1. 乳幼児健診，2. 乳幼児特別支援事業，3. 小児生活習慣病予防健診）を題材に検討した。また、京都府長岡京市の電子情報化への取り組み¹⁾と比較し、抽出された視点の変化を以下のようにまとめたので報告する。

1. 健康情報の活用の視点

- A. 乳幼児健診・予防接種未受診者への徹底した対応
- B. 家族単位での支援活動
- F. 生活習慣病予防の観点での小児期からの集団的支援とハイリスク者への支援

2. 健康情報の記録・管理の視点

- C. 家族単位での効率的な記録管理
- D. 将来的な健康課題に対応可能な記録管理
- E. 利活用に視点を置いた健康情報の収集・記録・管理
- G. 利活用に視点を置いた健康情報の収集・記録・管理に対する保健師の意識の統一
- H. 他機関や他市町村への情報提供を意識した記録管理
- I. 乳幼児期の健康情報と学校における健康情報の連動（学校健診との連携）

I. 研究の目的

市町村が管理する住民の健康情報を、人のライフステージに沿ってまとめると、図1のようになる。人のライフステージが継続するように、住民の健康情報もまた継続している。さらに、多くの人は、家族の構成員である。

茨城県石下町では、平成4年から平成11年までに、予防接種、総合健診、乳幼児健診の情報を管理する3つのデータベースをそれぞれ導入してきた。平成12年には、人のライフステージと家族性に視点を置き、これまでのデータベースを統合・再構築した。そして、以下2点を特徴とする家族リンク型健康情報

データベース（以下、本データベース）として稼動させた。

特徴1. 出生（妊娠期を含む）から高齢者までの健康情報（図1）を一元管理する。

特徴2. 家族の健康情報とリンクさせる。

本データベースを活用することにより、保健師活動においてどのような視点の変化が生じたのかを検討した。変化を抽出するために、3つの母子保健事業（1. 乳幼児健診，2. 乳幼児特別支援事業，3. 小児生活習慣病予防健診）を題材にした。

II. 研究の方法

以下3つの母子保健事業における本データベースの活用状況から、地域保健に従事する保健師の視点変化について検討した。

1. 乳幼児健診
2. 乳幼児特別支援事業
3. 小児生活習慣病予防健診

Ⅲ. 石下町保健師の業務型の概要

事業担当制と地区担当制を併用する

1. 事業の取りまとめは事業担当保健師が行う
2. 対人業務（家庭訪問や個別相談など）は地区担当保健師が行う
3. 必要時にスタッフカンファレンスを行い、保健師全員が共通理解を図る

Ⅳ. 結果

1. 乳幼児健診での活用

乳幼児健診の場面(図2)では、本データベースを以下のように活用した。

- (1)乳幼児健診の計測コーナー(=受付)にパソコンを1台置き、そこで母子健康手帳を受け取り個人画面を開く。
- (2)身長、体重などの計測値をその場で入力する。
- (3)以下の項目が表示された問診表を出力する。
 - ①家族構成
 - ②本日の計測値
 - ③過去の状況(妊婦健診・新生児訪問・これまでの乳幼児健診)
 - ④チェックマーク(観察を要する母子を端的に示すマーク) ※(5)参照
- (4)出力した問診表にそって、問診・診察・相談と健診を進めていく。相談を進めるにあたっては、本日の状況だけでなく、(3)にあげたような家族や過去の状況、チェックマークに注意する。
- (5)健診終了後のスタッフカンファレンスにて、観察を要する母子にチェックマークをつける。チェックマークの概要は資料2として添付する。

(6)健診終了後、本日の健診結果を業務担当保健師が入力する。

(7)入力済みの問診表は町のファイリングシステムの方針にのって、1年後に破棄する。

乳幼児健診未受診者対策(図3)では、本データベースを以下のように活用した。

- (1)乳幼児健診・相談(3か月、6か月、10か月、1才、1才6か月、2才、3才)が終了するごとに、未受診者をデータベースから抽出し、まずは、事業担当保健師がハガキにて連絡を行った。
- (2)ハガキにて連絡を行っても未受診の場合、地区担当保健師が電話や、家庭訪問などで状況の確認を行った。
- (3)さらに時点(8か月、1才2か月、1才9か月、2才2か月、3才6か月)を決めて、これまでの健診受診状況、予防接種状況などを確認し、地区担当保健師が電話や家庭訪問などで対応した。これまでの受診状況が一覧表で出力されるため、迅速かつ確実に受診状況の確認ができた。

以上のような本データベースの活用により、保健活動上の3つの視点を確認した。

A. 乳幼児健診・予防接種未受診者へ徹底した対応

乳幼児健診や予防接種未受診者の中に、個別対応を必要とする母子(乳幼児自身に支援の必要がある、家族に支援の必要がある、その両方に支援の必要があるなど)は存在している。未受診者対策を徹底して行うことで、個別対応を必要とする母子と早期にかかわることが可能になった。

B. 家族単位での支援活動

家族を対象に家庭訪問などを行うことで、母子だけでなく、例えば母親の育児疲れの原因となっている要介護状態の祖母への対応なども同時に行うことが可能になった。家族リンク型データベースと石下町保健師の業務型の特徴が生きた。

C. 家族単位での効率的な記録管理

訪問や相談の記録は、乳幼児の画面から家族画面へのリンクをたどることで、効率よく進めることが可能になった。訪問や相談の記録は、訪問者（地区担当保健師）が入力する。

2. 乳幼児特別支援事業での活用（図4）

石下町では、発育・発達に心配のある乳幼児を対象に、下記のような特別支援事業を行っている。

(1) 保健師による家庭訪問・育児相談

(2) 小児科医による診察・相談 1回/月

(3) 臨床心理士による発達相談 1回/月

(4) PT・OT・STによる訓練

PT 4回/月 OT 2回/月 ST 2回/月

(5) 臨床心理士，養護学校教諭による，幼稚園・保育園での巡回相談 必要時

- ・必要な支援内容は、事業にかかわるスタッフがチームを組み、検討を重ねている。
- ・(1)～(5)のすべての事業を必要とする乳幼児もいれば、部分的な支援のみを必要とする乳幼児もいる。
- ・1, 2回の事業への参加で特別支援の必要がなくなる乳幼児もいれば、就学まで継続した支援を必要とする乳幼児もいる。

石下町では、この事業にも、本データベースを活用してきた。対象者の早期把握・支援については、1. に述べた通りである。記録管理（図4）においては、数回の支援で終わる場合は、データベースのみの記録管理とし、継続的な支援を必要とする場合は、個別のカルテを作成し、カルテナンバーをデータベースで管理するようにした。他機関への情報提供は、データベースとカルテから必要な項目を抜き出し、情報提供書に転記し、保護者の同意を得た上で行った。

以上の活用により、さらに2つの保健活動上の視点を確認した。

D. 将来的な健康課題に対応可能な記録管理

本データベースは、個人の記録を、出生（妊娠期の記録を含む）から高齢者まで一元管理し、氏名や生年月日などから、過去の記録の検索が可能である。特別支援を必要とした乳幼児が、小・中学校または大人になり、引きこもりや生活習慣病等、何らかの健康課題が生じた場合、特別支援カルテの有無、過去の乳幼児健診や相談、家族への関わりの状況などを即時に確認することが可能となる。

E. 利活用を視点にした健康情報の収集・記録・管理

他機関へ情報を提供するにあたっては、特別支援にかかわる様々な職種（保健師，小児科医，臨床心理士，PT，ST，OT，養護学校教諭，保育士など）が記録したカルテと、本データベースから、子どもの支援に必要な情報を抜き出し、保護者にも理解できるように情報提供書を作成する必要があった。その情報からどんな支援が可能になるのかを考える必要もあった。これは、特別支援を必要としない子どもの情報に関しても言える。

3. 小児生活習慣病予防健診（図5）での活用

石下町では、「生活習慣病の予防には小児期からの支援が影響する」という仮説のもと、昭和62年より、小学校4年生と中学校1年生を対象に、以下の流れで小児生活習慣病予防健診（以下、健診）を実施している。

(1) 就学時健診の待ち時間を利用し、保護者に健診の説明をする

(2) 該当学年では、学校から保護者に書面で健診の連絡をする

(3) 健診は夏休み明けの9月に行うが、児童生徒には夏休み前に、健診オリエンテーションと生活習慣病予防啓発を保健師が行う

(4) 一次健診は各学校を会場として、集団で行う

(5) 一次健診結果は、保健師が取りまとめ、学校を通して保護者に返す

(6) 二次健診は、必要のある児童生徒に対し、

総合福祉センターにて集団で行う

- (7) 二次健診結果は、小児科医から保護者へ集団指導と個別相談を行った上で返す。必要があれば医療機関や保健師の個別対応を紹介する
- (8) 平成14年度までは、三次健診（家族健診）も実施していた
- (9) 健診結果は、平成14年より教育委員会との共通理解のもと、本データベースで管理し、将来的な事業評価を行っていくことを予定している
- (10) 平成17年には、健診で問題のあった児童と保護者に対し、食育支援事業を開始した。以上の活用により、6つ目の視点を確認した。

F. 生活習慣病予防の観点での小児期からの集団的支援とハイリスク者への支援

現在はまだ、「生活習慣病の予防には小児期からの支援が影響する」という仮説の検討を残している。本データベースを活用して、小児期からの集団的支援の評価と、ハイリスク者への支援の検討が可能になる。

V. 考察

結果では、本データベースの活用により得られた保健活動上の視点を6つ（A～F）抽出した。考察では、京都府長岡京市の電子情報化への取り組み¹⁾と比較していく。

1. 乳幼児健診での活用について

石下町と長岡京市の状況を比較すると、乳幼児健診や相談、訪問等の記録管理をデータベース上で行い、原則として記録の用紙管理をしない（ペーパーレス化を図る）という共通点があったが、以下のような相違点がみられた。

- ・長岡京市では、健診の対応に当たった保健師が、健診の状況をその場で即時入力をする方法を取っている。
 - ・石下町では、健診とスタッフカンファレンス終了後に、業務担当保健師が入力している。
- 活用の共通点に対して、長岡京市の取り組

みはは、以下のように報告している。

- ・これまで少しでも多くの情報があったほうがよいと考え、どんなことでも記録していたカードや記録表は種々雑多に収集され記録されていたため、その情報を有効活用することが困難であった。
- ・その情報がなければ母子の健康管理にどのような支障をきたすのか、1つひとつ検証した。
- ・利用しない不必要な情報は保存する必要がないことを、今まで十分に認識していなかった。

この報告からは、E. 利活用を視点にした健康情報の収集・記録・管理と同様の視点が確認できる。

また、活用の相違点に対して、長岡京市の取り組みは、

- ・システム化にとって、何が最大の障害であったかという点、費用でも時間でもなく、個人情報を取り扱う保健師の意識だった。
- ・誰にでもわかる記録を書く、情報を的確に収集するという訓練を常に行うことにつながった。

と、情報と記録に対する保健師の意識の統一を報告している。

G. 利活用を視点にした健康情報の収集・記録・管理に対する保健師の意識の統一もまた保健活動上の新たな視点である。

家族単位での支援や記録に関しては、長岡京市の報告の中には見られず、本データベース独自の視点であった。

2. 乳幼児特別支援事業での活用について

他機関への情報提供での活用について下記のような相違点が見られた。

- ・長岡京市では、関係機関等への情報提供に際して、「保護者の希望による関係機関や転出に伴う他市への情報提供などに必要な乳幼児健診結果や個別相談の内容は、情報提供書としてそのまま印字して提供できるようにした。」と報告している。

・石下町では、そのまま印字するのではなく、データベースとカルテから必要な項目のみを抜き出し、情報提供書に転記し、保護者の同意を得た上で情報提供を行っている。

長岡京市の報告では、「情報提供書に、個々の保健師が入力した内容が、メモとして残したものでそのまま印字されるため、どんな情報であれば公開できるのか、記録としてデータに残すべきか、という意識を常に持つことにつながった」と報告している。

同じ子どもの支援にあたる他機関への情報の提供は重要かつ必要なことであるが、個人情報保護の観点からも、情報提供は慎重に行われる必要がある。長岡京市の報告でも、「リスク管理と保存する情報の精査の必要性」が述べられているが、データベースを活用した情報提供の手段については、今後、さらに検討していく必要がある。

しかし、H. 他機関や他市町村への情報提供を意識した記録管理は、今後の保健活動上に必要な視点のひとつである。

3. 小児生活習慣病予防健診での活用

長岡京市の報告では、出生から就学までの一貫した関わりを報告している。一方、石下町では、児童・生徒の健康情報を入れ込み、出生から高齢者までを一元管理するシステムを活用している。これは、本データベース独自の視点であった。

乳幼児の健康情報は、児童・生徒の健康情報へとリンク可能なものである。本データベースは、児童・生徒の健康情報を、小児生活習慣病予防健診のみ扱う。データベースを学校健診ともリンクさせたなら、さらに継続的な支援と評価が可能になる。ここで、保健活動上の視点を追加する。

I. 乳幼児期の健康情報と学校における健康情報の連動（学校健診との連携）

VI. まとめ

本データベースの活用により得られた知見を

以下のようにまとめる。(表1)

1. 健康情報の活用の視点

- A. 乳幼児健診・予防接種未受診者へ徹底した対応
- B. 家族単位での支援活動
- F. 生活習慣病予防の観点での小児期からの集団的支援とハイリスク者への支援

2. 健康情報の記録・管理の視点

- C. 家族単位での効率的な記録管理
- D. 将来的な健康課題に対応可能な記録管理
- E. 利活用に視点を置いた健康情報の収集・記録・管理
- G. 利活用に視点を置いた健康情報の収集・記録・管理に対する保健師の意識の統一
- H. 他機関や他市町村への情報提供を意識した記録管理
- I. 乳幼児期の健康情報と学校における健康情報の連動（学校健診との連携）

VII. 文献

- 1) 池田裕子, 他: 長岡京市の電子情報化への取り組み. 保健師ジャーナル, 61(6): 507-512. 2005.

市町村における母子保健情報電算化支援と課題の検討

渡辺 多恵子	茨城県常総市
松田 由佳	愛知県阿久比町
田中 太一郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部
山崎 嘉久	あいち小児保健医療総合センター
松浦 賢長	福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座
山縣 然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部

本研究班では、母子保健情報を利活用するためのシステム・モデルの開発にとりくんだ。そして、愛知県知多半島エリアにおいて、システム・モデルの試験的地域運用を行った。

平成17年度には、既存の乳幼児健診問診項目をデータ化していくための入力支援ツール、山縣班簡易母子保健データベースver.1を、Microsoft Office Access 2003により開発した。

平成18年度には、簡易母子保健データベースver.1の活用により生じた課題を確認し、その改訂版としてver.2を作成した。山縣班簡易母子保健データベースver.1活用により生じた課題は、以下7点であった。

- (1)使用する記録媒体について
- (2)入力困難な情報の取り扱い
- (3)入力の必要がないと感じる項目の取り扱い
- (4)入力しやすいフォームの作成
- (5)健診結果二次情報の入出力
- (6)保健所提出用の集計表の作成
- (7)フォロー台帳の作成

(1)～(3)は、データデータベースの活用法の工夫や問診項目の取り扱い等により解決可能な課題であった。(4)～(7)は、データベースの改訂が必要とされた課題であり、改訂版データベースver.2は、それらの課題を踏まえて作成した。

改訂版データベースver.2導入後に残した課題は、以下2点であった。

- (1)今後のデータベース改訂作業
- (2)データベース活用マニュアルの作成

さらに、本研究における課題の確認とデータベース改訂作業を通して、母子保健情報をデータ化するという取り組みに組み込んだ保健師には、以下のような活動の視点が生じることを確認した。

- (1)健康情報の利活用を目的とした情報収集・記録・管理
- (2)健康情報の利活用を目的とした情報収集・記録・管理に対する保健師の意識の統一

I. 目的

現在の母子保健情報の流れは、健康情報を例にあげると、個人の健診情報が市町村において集積され、県に報告されるというプロセスになっている。このプロセスゆえに、県、

もしくは国において、個別データを利活用した政策立案や分析が困難になっている¹⁾。本研究班では、母子保健情報を利活用するためのシステム・モデルの開発にとりくんだ。そして、愛知県知多半島エリアにおいて、システ

ム・モデルの試験的地域運用を行った（別稿）。

平成17年度には、電算化が行われていなかった愛知県大府市及び阿久比町（以下、2市町という）に対して、既存の乳幼児健診問診項目をデータ化していくための入力支援ツール、山縣班簡易母子保健データベースver.1を、Microsoft Office Access 2003により開発した（以下、本データベースとする）²⁾³⁾⁴⁾。

平成18年度には、2市町が実際業務において本データベースver.1を活用する中で生じた課題を確認し、その改訂版としてver.2を作成した。そして、実際業務において本データベースを継続して活用していく際に存在する課題について確認した。さらに、課題の確認とデータベース改訂作業を通して、母子保健情報のデータ化に取り組んだ保健師に共通して見られるようになった活動の視点を確認したので報告する。

II. 方法

1. 本データベースver.1を活用する中で生じた課題の確認と改訂版データベースver.2の作成

平成18年1月より、本データベースver.1を活用してきた2市町の母子保健担当者に、分担班班会議やメーリングリストを用いて聞き取りを行い、本データベースver.1を活用する中で生じた課題を確認した。

改訂作業は、Microsoft Office Access2003を使用して行い、既定のファイル形式は、Access2000とした。

2. 改訂版データベースver.2導入後に残した課題についての検討

本データベースを活用している2市町の母子保健担当者に、分担班班会議においてグループインタビューにより聞き取りを行い、本データベースを今後も継続して活用していく際に存在する課題について検討した。

III. 結果と考察

1. 本データベースver.1を活用する中で生じ

た課題の確認と改訂版データベースver.2の作成

本データベースver.1を活用している2市町の母子保健担当者より出た意見は以下の通りであった。

- ・ 市のパソコン環境が変わり、USBメモリ（USBポートを用いてデータを転送するフラッシュメモリ）が使用できなくなった。使用できる記録媒体はMOのみであるがどうしたらいいか。
- ・ 育児は楽しいですか？等の保護者の気持ちに関する質問において、「はい」とも「いいえ」とも答えにくく、（はい・いいえ）の中間に○をつけてきた場合の入力に困った。また、紙媒体であれば図を用いて曖昧に記入している生活時間等の情報についても入力に困った。
- ・ 実際業務を行っていく上で、「入力の必要性を感じない」項目が出てきた。入力する項目、しない項目を市町村のレベルで決めて良いか悩んでいる。
- ・ 既存の間診票や記録カードと入力画面が一致していないので、入力の際に間診票やカードをあちこち見なければならず、入りに時間がかかってしまう。
- ・ 追跡情報入力フォームがほしい
- ・ 保健所提出用の集計表をデータベースから出力したい
- ・ データベースに情報を入力する他に、現在は、手書きのフォロー台帳を作っている。入力作業もあり、手書き作業もあり、手間がかかる。フォロー台帳はデータベースから作成できると聞いても、そのやり方がわからない。

2市町の母子保健担当保健師から出た意見を検討した結果、本データベースver.1を活用する中で生じた課題は、(1)データベースの活用法の工夫や問診項目の取り扱い等により解決可能な課題、(2)データベースの改訂が必要とされる課題の2つに分類された。

(1) データベースの活用法の工夫や問診項目の取り扱い等により解決可能な課題

① 記録媒体についての課題

現在使用できる記録媒体はMOのみと言うことであるが、MOに保存することで問題はない。セキュリティの面からは、むしろその方が望ましい。データベースのバックアップも、庁内サーバー等への保存が望ましい。個人情報を取り扱う保健師は、情報漏洩の問題も常に考えて行かなければならない。

② 入力困難な情報の取り扱いについて

質問項目が、保護者の気持ちや関係性、あるいは社会性に関連した領域になってくると、「はい」とも「いいえ」とも答えにくく、(はい・いいえ)の中間に○をつける場合が健診の現場では起きている。これらの情報のデータ化については、昨年度の研究において検討している⁵⁾。「はい」「いいえ」以外の場所に○印が付されていた場合、問診の際にごく自然に「ここに○が付されていますがどちらでしょうか」とか「お答えになりにくいのはなぜですか」など相談につながることが多い。”保護者と保健師とのコミュニケーションツールとしても利用できる”，”母の気持ちをうかがうチャンスになっている”，など、肯定的側面もある。データとしての不適切さを問診の契機とするという逆転の発想である。しかし、データとしてはこれでは活用できない。データの取り扱いとしては、「はい」以外の場所に○印が付されている場合は、すべて「いいえ」と処理した上で、問診や相談の場面で得た曖昧回答の理由などを、テキスト入力するボックスに記載しておくなど入力方法をルール化することで対応可能である。また、山縣班50完成版においては、「子育てが楽しいと思える時がよくありますか」と質問し、「よくある・ときどきある・あまりない・ない」という4つの選択肢を用意している(別稿)。今後、訊き方や選択肢を変更することによっても対応可能な課題である。

生活時間等の入力に関しても、その情報を

あとからどのように活用するのか検討した上で、入力方法(記録方法)をルール化すること、あるいは、訊き方や選択肢を変更することでも対応可能となる課題である。

③ 入力の必要がないと感じる項目について

実際業務を行う中で「入力の必要がない」と感じた項目に関しては、その情報をどのように活用していくのかを検討した上で、集積するしない(入力するしない)を決めることは実際業務においての重要な視点である。その情報のもつエビデンスや活用の仕方を考える上で、保健所や研究者に相談することも一手段である。

今回、②入力困難な情報の取り扱いや、③入力の必要がないと感じる項目の取り扱いを考えることで、その情報がなぜ必要なのか、その情報を何に活用するのか、その情報を活用するためには、どのようなきき方・選択肢を用意したらよいかなどを実際業務の中で2市町の保健師が考えるきっかけとなった。

茨城県石下町(現常総市)における家族リンク型健康情報データベースの活用⁷⁾では、「データベースから子どもの支援に必要な情報を抜き出し、保護者にも理解できるように情報提供書を作成する必要があるため、その情報からどんな支援が可能になるのか考えながら記録(入力)していく必要があった」と報告している。

また、京都府長岡京市における電子情報化への取り組み⁸⁾は、「これまで少しでも多くの情報があったほうが良いと考え、どんなことでも記録していたカードや記録表は種々雑多に収集され記録されていたため、その情報を有効活用することが困難であった」「その情報がなければ母子の健康管理にどのような支障をきたすのかひとつひとつ検討した」「利用しない不必要な情報は保存する必要がないことを今まで十分に認識していなかった」と報告している。

つまり、本データベースの活用により母子保健情報をデータ化するという取り組み

んだ2市町の保健師と、これまでに母子保健情報をデータ化するという取り組みでできた茨城県石下町の保健師と京都府長岡京市の保健師には、『健康情報の利活用を目的とした、情報収集・記録・管理』という活動の視点が確認できた。

さらに、2市町の保健師は、本データベースの活用を通して、「その情報をあとからどのように活用するのか検討した上で、入力方法（記録方法）をルール化する」という作業を行っている。

京都府長岡京市の電子情報化へのとりくみ⁸⁾は、「電子情報化にとって何が最大の障害であったか」というと、費用でも時間でもなく、個人情報を取りあつかう保健師の意識だった。「誰にでもわかる記録を書く、情報を的確に収集するという訓練を常に行うことにつながった」と報告している。

2市町の保健師と、京都府長岡京市の保健師には、『健康情報の利活用を目的とした、情報収集・記録・管理に対する保健師の意識の統一』という視点が確認できた。

(2) データベースの改訂が必要とされた課題

① 入力しやすいフォームの作成

入力ボックスの位置や表示ラベルを、既存の間診票に合わせて変更することで、入力時間はかなり短縮される。

② 健診結果二次情報の入出力

③ 保健所提出用の集計表の作成

愛知県では、昭和60年より、地域の一貫した乳幼児健康診査体制の整備を目的に作成された「母子健康診査マニュアル」（以下、マニュアルとする）に基づき乳幼児健診を実施している⁶⁾。マニュアルには、健診の事後管理及び情報管理システムに関する内容も含まれており、健診結果について、市町村が保健所に報告するための様式が決められている。本データベース ver.1の導入により健診結果はデータ化されており、Microsoft Office Excelと本データベースのエクспорт機能を活用す

ることにより集計表の作成は手集計なしで行うことができるようになっていた。しかし、実際には、データベース入力の他に、手集計（集計表に正の字を書いて）により集計表を作成しているという現状があった。

また、愛知県の報告様式は、追跡対象となったものの追跡内容及びその結果（二次情報）までを報告するようになっていた。しかし、本データベース ver.1には、二次情報を入力フォームがなかった。よって二次情報の集計のためにもまた、手作業が必要となっていた。

二次情報については、一次情報と同じようにデータ化していく必要があるため、二次情報入力フォームは必要であるが、集計表の出力に関しては、本研究班がめざす母子保健情報モデルシステム（市町村が連結可能な匿名化データを保健所に報告し、保健所は解析されたデータを市町村に還元していく）では必要としない。しかし、マニュアルで決められている報告用の集計表様式をすぐに無くすことは困難である。実際業務を行っている母子保健担当者のニーズを踏まえた当面の市町村支援として、本データベースに集計表出力機能を持たせる必要がある。

④ 継続支援対象者台帳の作成について

2市町では、乳幼児健診のあとに継続支援が必要な母子の情報を、本データベースにデータとして入力する他に、手書きの台帳を作成していた。本データベースにデータとして保有した情報は、Microsoft Office Excelと本データベースのエクспорт機能を活用することにより自由な形で表示させることが可能であり、現在2市町が行っている手作業は省略することができる。しかし、実際業務を行う母子保健担当保健師が、Microsoft Office Excelを、すぐにそのレベルまで使いこなすのは困難であり、やはり当面の市町村支援として、本データベースに台帳出力機能を持たせる必要がある。

上記の結果を踏まえ、本データベース ver.1

を以下のように改訂した。(図1)

①阿久比町問診情報入力フォーム改訂 (図2)

- 必要がないと考えたために削除した項目
 - ・退院時の黄疸・哺乳力(乳児)
- 重複して入力しているために削除した項目
 - ・問診画面側の診察所見欄(乳児・1歳6か月・3歳)
 - ・よく歩くか?~困った行動くせ(1歳6か月)
 - ・運動面についての心配~テレビ視聴時間(3歳)
 - ・視力検査, 聴力検査問診項目(3歳)
- 選択肢を変更した項目
 - ・分娩経過の異常内容・・・選択肢+文字入力に(乳児)
 - ・判定・・・各判定ごとの内容入力フォーム設置(乳児・1.6歳・3歳)
 - ・歯の汚れ・・・デフォルトで「ふつう」を選ぶように(1.6歳)
- 表示ラベルを変更した項目
 - ・問診項目の前に, 記録カードと同じ数字を入れる(乳児・1.6歳・3歳)
 - ・処置歯が2つあるので, そのひとつを「と銀歯」に(1.6歳)
- 入力フォームの場所を移動する項目
 - ・日課-起床時刻, 就寝時刻, 戸外遊び時間, テレビ視聴時間(1.6歳, 3歳)
 - ・育児の相談相手 有・無(3歳)
- 追加する項目
 - ・妊娠中の歯科検診受診 無・有(町)・有(病院)・有(町・病院)
 - ・妊娠中の体重増加 kg
 - ・育児の相談相手 有・無(1.6歳)
 - ・予防接種確認チェックマーク(1.6歳・3歳)
 - ・栄養相談チェックマーク(1.6歳・3歳)
 - ・心理相談チェックマーク(3歳)
- その他, 細修正
 - ・乳児健診のカウプ指数を小数第一位まで

表示するように変更

②健診二次情報入力ボックスの設置 (図3)

- 一次情報入力ボックスの横に設置した。
- 入力ミス無くすため, 一次情報が要追跡(要観察・要精検・要医療)の場合にのみ, 二次情報入力ボックスが表示されるようにした。
- 一次情報及び二次情報の詳細を記載するテキストボックスを設置した。

③集計表及び乳幼児健診レポート(フォロー台帳)出力機能の追加

- 乳幼児健診受診日で連結させて, 集計表及び乳幼児健診レポートを出力するフォームの設置(図4)
- 愛知県報告書様式に合わせた集計表レポート設置(図5, 6)
- 乳幼児健診レポート(フォロー台帳)の設置(図7)

2. 改訂版データベースver.2導入後に残した課題についての検討

本データベースver.2を活用している2市町の母子保健担当者よりでた意見は以下の通りであった。

- ・問診項目の見直しを考えているが, 問診項目や選択肢を変更した場合, データベースの改訂はどうしたら良いか
- ・氏名・住所の入力など, 現在, 手入力をしているが, この作業を省略できないか?
- ・3時点の健診以外にも, 育児相談参加状況など入力する画面がほしい
- ・歯科検診の入力画面もほしい
- ・その子がこれまでに受けたサービスとその概要を確認できる画面がほしい
- ・未受信者の出力などはできないか

2市町の母子保健担当保健師から出た意見を検討した結果, 本データベースを今後も継続して活用していく際に存在する課題は, (1)今

後のデータベース改訂作業に関する課題、(2)データベース活用マニュアルの作成に関する課題、の2つに分類された。

(1) 今後のデータベース改訂作業に関する課題

現在は、以下のような場合に、データベースの改訂作業が必要になっている。

- ・問診項目のきき方を変えたり、選択肢を変更したい場合
- ・新しい問診項目を追加したい場合
- ・現在はない様式のレポートを出力するなど、新たな機能を持たせたい場合

大府市においては、上記のような改訂作業を、市の情報担当課が引き継ぐこととなったが、阿久比町においては、町が引き継ぐことが困難であった。

本研究班は、「試験的地域運用期間終了後も続いていけるシステムの構築」を考えて来た。研究班の手が離れると崩れてしまうシステムは本来の目的ではない。研究班の手が離れても、ずっと解析が行われ市町村に還元されていくシステムにしていかなければならない。現在モデルとして使用されている本データベースに関しても、ひとつふたつ修正を加えればよいという問題ではない。今後のデータベースの改訂については、引き続き検討していかなければならない。

(2) データベース活用マニュアルの作成に関する課題

2市町の母子保健担当保健師によるとMicrosoft Office Excelとデータベースのエクспорт機能等を活用することで、現在行っている手作業のほとんどが必要なくなることは分かったが、それらの機能を使いこなすことが困難であった。研究班としては、データベースの活用マニュアルの作成等も検討する必要がある。

IV. まとめ

1. 山縣班簡易母子保健データベースver.1活用により生じた課題は、以下7点であった。

(1)データをエクспортしたxlsファイルを保健所へ提出する際に使用する記録媒体について

- (2)入力困難な情報の取り扱い
- (3)入力の必要がないと感じる項目の取り扱い
- (4)入力しやすいフォームの作成
- (5)健診結果二次情報の入出力
- (6)保健所提出用の集計表の作成
- (7)フォロー台帳の作成

(1)～(3)は、データデータベースの活用法の工夫や問診項目の取り扱い等により解決可能な課題であった。

(4)～(7)は、データベースの改訂が必要とされた課題であった。

2. 改訂版データベースver.2導入後に残した課題は、以下2点であった。

- (1)今後のデータベース改訂作業
- (2)データベース活用マニュアルの作成

本研究における課題の確認とデータベース改訂作業を通して、母子保健情報をデータ化するという取り組みに組み込んだ保健師には、以下のような活動の視点が生じることを確認した。

- (1)利活用を視点にした健康情報の収集・記録・管理
- (2)利活用を視点にした健康情報の収集・記録・管理に対する保健師の意識の統一

V. 文献

- 1)松浦賢長，他：母子保健情報の利活用をめざした全国システムの展開に関する研究一分担班まとめ－厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）山縣班報告書，2006.
- 2)山崎嘉久，他：母子保健情報の利活用をめざした全国システムの展開に関する論点について－課題2群個別データ集積の仕組みに関する検討－厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）山縣班報告書，2006.
- 3)山崎嘉久，他：個別データ集積に関わる知

多半島エリアにおけるモデルシステム構築の試み - 知多半島プロジェクト1年目について - 厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 山縣班報告書, 2006.

- 4) 田中太一郎, 他: 各市町村の電算化状況に応じた母子保健情報電算化システムの導入. 厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 山縣班報告書, 2006.
- 5) 松浦賢長, 他: 母子保健情報の利活用をめざした全国システムの展開に関する研究 - 課題2群個別データ集積のしくみに関する検討 - 厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 山縣班報告書, 2006.

6) 山崎嘉久, 他: 愛知県母子健康診査マニュアルの経年的評価特に保育・家庭環境分類に関する課題について. 厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 山縣班報告書, 2006.

7) 渡辺多恵子, 他: 家族リンク型健康情報データベースの活用と保健師活動における視点の変化に関する研究. 厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 山縣班報告書, 2006.

8) 池田裕子, 他: 長岡京市の電子情報化への取り組み. 保健師ジャーナル, 61(6): 507-512. 2005.

【資料】

図 1

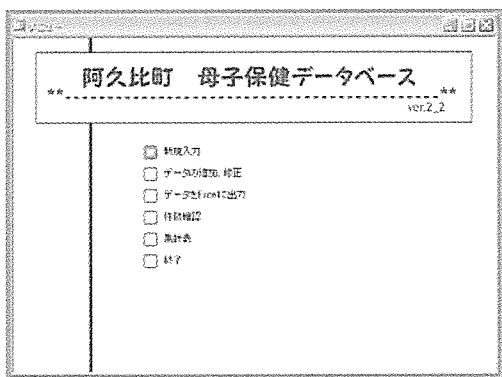


図 2

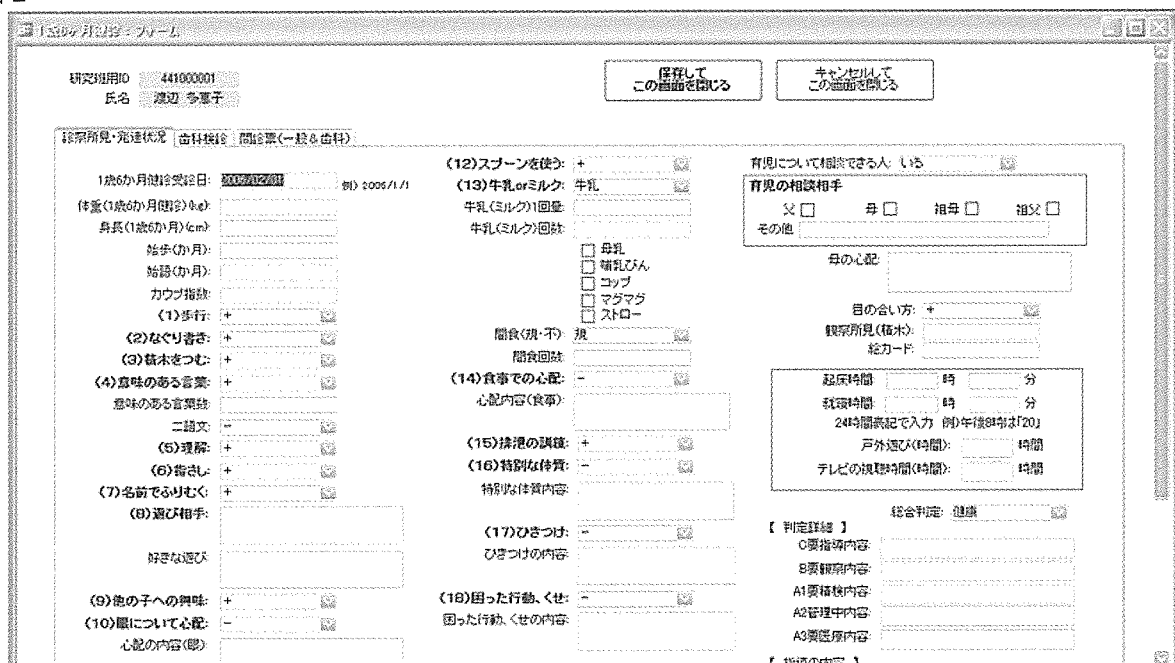


図3

1歳5ヶ月児診察の履歴

研究班用ID 441000001
氏名 薄辺 冬恵子

保存してこの画面を閉じる キャンセルしてこの画面を開じる

疾病分類 保育・家庭環境分類

体重増加不良: A1 要精査 <input checked="" type="checkbox"/>	心雑音: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
肥満: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	循環器疾患その他: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
低身長: C 要指導 <input checked="" type="checkbox"/>	ぜん息性疾患: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
精神発達4月: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	呼吸器疾患その他: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
言語発達4月: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	ヘルニア: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
精神発達障害・機能障害その他: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	消化器疾患その他: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
頭囲・大泉門異常等: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	停留嚢丸: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
運動発達異常・感覚器異常: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	泌尿器・腎疾患その他: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
筋緊張異常: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	視力障害・斜視(疑): D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
けいれん: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	眼科疾患その他: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
神経・運動機能障害その他: B 要観察 <input checked="" type="checkbox"/>	眼科検査未実施: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
湿疹・皮膚炎: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	聴覚障害(疑): D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
アトピー性皮膚炎: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	耳鼻咽喉疾患その他: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
皮膚疾患その他: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	耳鼻咽喉科検査未実施: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
開非制限: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	染色体異常: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
骨・関節疾患その他: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>	代謝異常: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>
	疾病その他: D 問題なし <input checked="" type="checkbox"/>

一次結果 体重増加不良、カウプ指数12.8、受診のすすめ。一人歩き(-)、1歳5か月に依り歩ぎが可能となった。受診すすめる。

二次結果

図4

F-15 計出力フォーム：フォーム

集計表出力フォーム

このフォームをとじる ↑

Day From: ~ Day To: までの、健診集計表を出力します。 日付クリア

※日付は、2006/1/1 のように入力してください

<p>乳児健診集計</p> <p>乳児健診 1次集計 NO.1</p> <p>乳児健診 1次集計 NO.2</p> <p>乳児健診 1次集計 NO.3</p> <p>乳児健診 2次集計 NO.1</p> <p>乳児健診 2次集計 NO.2</p> <p>乳児健診 2次集計 NO.3</p> <p>疾病・保育家庭環境 備考 (1次&2次)</p>	<p>1歳6ヶ月児健診集計</p> <p>1.6歳健診 1次集計 NO.1</p> <p>1.6歳健診 1次集計 NO.2</p> <p>1.6歳健診 1次集計 NO.3</p> <p>1.6歳健診 2次集計 NO.1</p> <p>1.6歳健診 2次集計 NO.2</p> <p>1.6歳健診 2次集計 NO.3</p> <p>疾病・保育家庭環境 備考 (1次&2次)</p>	<p>3歳児健診集計</p> <p>3歳健診 1次集計 NO.1</p> <p>3歳健診 1次集計 NO.2</p> <p>3歳健診 1次集計 NO.3</p> <p>3歳健診 2次集計 NO.1</p> <p>3歳健診 2次集計 NO.2</p> <p>3歳健診 2次集計 NO.3</p> <p>疾病・保育家庭環境 備考 (1次&2次)</p>
---	---	--

シコード: 14